



日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2005.07.21

No. 28 - 42

発行: 日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会
〒144-0043
東京都大田区羽田5-11-4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274
E-mail:office@alpajapan.org

RA (地域航空) 職場の現状 (企業再編対策委員会報告)

はじめに・・

今日日本の企業再編の方向はANAグループとJALグループの完全な二極化、そして2009年羽田枠の開放をにらんだ新たな航空会社の設立へと動きはじめています。

中日本エアラインはエアーセントラルに社名変更して2月開港の中部国際空港を基地に、仙台空港基点のフェアリンクはIBEX(アイベックス)と社名を変えANAグループの路線を担っています。

一方JALグループの方ではJ-AIRが広島から名古屋飛行場に基地を移動しCRJ機を増機、JALエクスプレスはJAL-Jからの機材(MD-81)と路線の移管により小型ジェット機の市場を拡大しつつあり、更には新機材B737NGの導入が計画されています。またJACでもQ400の増機が計画されています。

また低運賃を謳って生まれたスカイマークやエアドゥも共同運航という形でいずれかのグループ運航を一部担い、スカイネットアジア航空は不採算とその運航体制の不十分さからANAの支援を仰ぐこととなりました。二極化はさらに拍車をかけていると言えます。

また新たな航空会社としては、2006年3月16日新北九州空港の開港をにらんだA320を使うスターフライヤー、更にはA300-600R型機による貨物専門航空会社ギャラクシーの設立が準備されています。低コスト航空会社や新規航空会社は乗員の確保が重要な課題となっています。

地域航空乗員の流動

このような中、企業再編対策委員会には各グループ子会社で乗員の退職・同業他社への流動が数件報告されておりこの人数は徐々に増えつつあります。

現在RA(地域航空)職場での退職・流動は不当な訓練環境・訓練中断に対しての抗議退職がきっかけとなっています。その訓練実態とフェイル率は日乗連として看過できるものではないようです。

ここ数年は乗員の売り手市場であり、グループ子会社の乗員の中では、パイロットとして純粋に乗務機種の希望を実現したいとする人が数多く内在していると委員会は考えています。FO昇格までに経済的な負の遺産を抱えている者(昇格以前に自己資金でライセンスを取得している者)にとっては切実であり、このまま自社での労働環境の改善が望めない状態が続き、同業他社でキャリアアップできる環境さえ整えばこの流動化の動きは大きく加速していくものと思われます。

日乗連として

日乗連として危惧されるのは、小規模の組合を中心とした組合活動の低迷化と未組織の会社移動による日乗連全体の組織力・団結力の低下です。日乗連は「乗員の流動化」に対して職場選択の自由の観点から抑制することも推奨することも見解として持ちえていません。しかしながら健全で公正な乗員養成という観点からRA(地域航空)職場での劣悪な訓練環境・実態は早急に正していく必要があります。

